

リトリートの達人

豊島 大輝さん

Profile

大阪府枚方市生まれ。鹿野山自然学校校長にして「亀山温泉ホテル」のリトリート・自然体験担当として、訪れる人々に「忘れていたスイッチ」を入れ続けている。
【鹿野山自然学校】<https://kanozan.jimdo.com/>
【亀山温泉ホテル】<https://www.kameyamaonsen.jp/retreats/>

リトリートしてますか!? こないだミスってボールを奪われちゃったので誰よりも早く自陣ゴール前まで戻って攻撃に備えちゃいましたよ! 攻守の切り替え大事! :え? 違う? サッカーの話じゃないの!? 非日常的空間で心と体をリフレッシュ! そうならそうと早く言ってよ!!

というわけで、今回登場するのは「リトリートの達人」豊島大輝。穏やかな人間性に触れてあなたもリトリートしちゃいな!



— 麦わら帽子で登場とは… ネイチャー感満載ですね。
— はは。イメージ作りですね(笑)。

— キャラ付けとしては申し分ないかと思えます。いきなりですが、いつからそんなネイチャーなんですか?
— アウトドア一家で育ったんです。

— …「北の国から」的な?
— いやいや、山育ちとかサバイバルとかそういうことではないんです(笑)。大阪の普通の街育ちでしたが、父がアウトドアが大好きで毎週末家族でキャンプに行っていたんです。普段は街中で生活しているけど、週末はそこを離れ

て自然の中で過ごす。その素晴らしい記憶は今に繋がっていますね。

— 街育ちだからこわかる自然のありがたさですね! でも、それを仕事にするのは簡単ではなかったでしょう?
— どちらかというとかなり大変だったかな(笑)。実は私が小学校6年生の頃、毎週キャンプに連れて行ってくれていた父が仕事に打ち込み過ぎて過労で脳梗塞を発症してしまい、それをきっかけに父の性格が一変してしまっただけです。それで楽しかった週末の景色が全く変わってしまった。その時、子どもながらに「人は自然から離れてはいけない」という考えが刻み込まれたんです。

— なるほど。では、千葉へはどうして?
— 父の実家が木更津なんです。病気があって父が早期退職して実家に帰ることになったのを機に一緒に来て。もともとスポーツが好きで健康に関わる仕事をしたいと思っていたので、こっちはスポーツインストラクターとして働き始めました。

— 距離も職業も近くなってきました! 仕事を始めて気づいたのは、健康業界は「資格社会」だということ。今でこそ健康関係の資格は当たり前のものです

見たり、自然との繋がりを感じるモノ・コトを体験していくことで、「人」を「ヒト」に戻すことですかね。

— 「ヒト」に戻す?
— 自然との再統合、とも言いたいですか。本来、人間は自然との距離が近かったらうし、もっと踏み込んでいえば、人間も自然の一部じゃないですか。大昔はもっとその恩恵というか力を感じていたと思うんです。もっと生物としての「ヒト」に立ち返る。そうすることで本来持っている力を取り戻せると思うんですね。「想像力」もそのひとつだと思います。私自身は自然との繋がりを感ずることで「自由」をすごく感じられていきます。最初は自分の好きなことを追い求めているだけだったけど、仕事を通じてたくさんのお客様から感謝の言葉をいただいていたことで、私自身が感じてきた自然との繋がりが自由をお客様にも感じてもらうことは、「使命」だと思っています。

— なんだかすごい深い話になってきましたね。
— あ、私、自然至上主義者じゃないですよ。

— 良かった(笑)。大事なことなんです。が、押し付けられるとキツイです:「こうでなければいけない」なんていう自然はないと思います。そういうのは人間が勝手に決めていきますよね。とはいえ、いきなり「自然の中で自由」と言われると人は戸惑ってしまいます。

— 良かった(笑)。大事なことなんです。が、押し付けられるとキツイです:「こうでなければいけない」なんていう自然はないと思います。そういうのは人間が勝手に決めていきますよね。とはいえ、いきなり「自然の中で自由」と言われると人は戸惑ってしまいます。

(笑)。なので、お越しいただいた方には、ある程度の枠組みのプログラムは提供しますが、「リトリート」の基準は人それぞれ。自分の中で何が気持ち良くて、何が不快か。それを知ることが出来るのもリトリートのひとつだと思います。私自身は「脳ミソのさび落とし」みたいなものだと考えています。

— 脳ミソのさび落とし! いいですね! 正直、「リトリート」という言葉にも特にこだわりはないんです。今の時代に合っている流行り言葉のひとつだと思っているから使っています。

— それは入口でしかなくて。そうですね。大事なことは日常から離れてみたり、違う角度から見たりして、いつもと違う自分に出逢うこと。少なくとも「旅先にいる自分」は「いつもの自分」ではないですよ。そんな時に読む本とか聴く音楽が妙に響いたりすることもあるじゃないですか。その感覚を海外の方にもここで味わってもらって、ここから「リトリート」を世界に輸出したいですね。

— すげえ面白いですねそれ!
— 物腰柔らかい語り口そのままに、自然を愛しながらもそこにこだわらない。その人にとって一番の心地よさを常に考える豊島さん。これまでになかったタイプの柔らかい特濃!ふと日常に疲れたら、ちよつと豊島さんのとこまで非日常に來ちゃいな! ROCK!!

が、当時はまだ〇〇インストラクターとか〇〇セラピストみたいなのは、ほとんどが海外からの輸入版でした。英語のテキストを一生懸命読んで資格を取ったりしてましたね。大変でしたけど、そうするしかなかったんですよ。

— そのパワーというか、熱意がすごい。私自身は、想像力の賜物かなと思ってます。例えば海外だからダメだとか、英語だからダメだとか目の前にあるものだけを見てたらそれで終わりなんですけど、想像力を働かせれば、それだけが答えじゃないと気付くと思うんです。

— すよね。私、地図を見て、どこに行こうかな?とか、どんなところなのかな?とか想像力を働かせるのが大好きなんですよ!

— それわかります! 最近の子はその楽しさがわかりますかね?
— 今は全部スマホの中に答えがありますからね:。

◆ 脳ミソのさび落とし
— 単刀直入に聞きます。スバリ「リトリート」は?
— 日常から離れてみたり、違う角度から

想像力を働かせて

